

天平元年己巳の冬十二月の歌一首 并せて短歌

一七八七番

うつせみの 世の人なれば 大君の 命恐み
磯城島の 大和の国の 石上 布留の里に
紐解かず 丸寝をすれば 我が着たる 衣はな
れぬ 見るごとに 恋は増されど 色に出でば
人知りぬべみ 冬の夜の 明かしも得ぬを 眠も
寝ずに 我はそ恋ふる 妹がただかに

反歌

一七八八番

布留山ゆ 直に見渡す 都にそ 寝もねず恋ふ
る 遠からなくに

一七八九番

我妹子が 結ひてし紐を 解かめやも 絶えば絶
ゆとも 直に逢ふまでに